

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	19H05661	研究期間	令和元(2019)年度 ～令和5(2023)年度
研究課題名	融合身体VRによる身体図式変容の心理学的基盤解明と工学的応用	研究代表者 (所属・職) (令和3年3月現在)	廣瀬 通孝 (東京大学・先端科学技術研究センター・名誉教授)

【令和3(2021)年度 中間評価結果】

評価	評価基準
○ A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(研究の概要)</p> <p>本研究は、VR空間で複数人が一つの身体を使用し、「私」でも「我々」でもある身体運動を通して、共同行為が自らの寄与である感覚のメカニズムと身体動作に必要な潜在的知識の変容のメカニズムを明らかにしようとするものである。</p> <p>さらに、明らかにされたメカニズムを応用して、効率的な身体スキル伝達手法の実現を目指している。この目的のため、バーチャルな身体を複数人で操作する「融合身体」をVR環境として構築し、基礎原理の解析と応用を目指している。</p>	
<p>(意見等)</p> <p>現在までのところ、新型コロナウイルス感染症の流行など研究を取り巻く状況の変化にもよく対応して、三つの主たる研究項目についてそれぞれ着実に進展をさせている。</p> <p>「1. We-mode を成立させる融合身体構成法確立」では、融合身体利用時の知覚認知特性と、We-mode を成立させる身体融合比率を明らかにした。</p> <p>「2. 融合身体における運動意図伝達と身体図式変容が起こるメカニズム解明」では、行為主体感検討のためのオンライン実験環境を構築して、行為とその感覚フィードバックの時間ズレに関する行為主体感の特性を解明し、アバタ表示方式を検討した。</p> <p>「3. 融合身体を用いた身体スキル伝達手法の構築・実用、その有用性と適用限界の解明」では、オンライントレーニング環境の構築も行っている。この課題は、認知科学的な解析・理論の構築進展に大きく依存するが、可能な範囲で並行して研究を進めている。</p> <p>いずれの研究成果も身体性に関する重要な知見を含んでおり、今後の更なる展開が期待できる。</p> <p>研究成果について、学術論文誌、国内外の学術会議発表、著書など幅広く社会に対して発信しており、また、融合身体という独創的な概念により、当該研究分野の拡がりへの発展や、新しい学問分野を牽引している研究である。</p>	